



島根大学広報誌 広報しまだい

Shimadai

2015.4 vol.24

服部泰直 新学長インタビュー

特集 ■
学長として島根大学にかける思い



特集 ■
「開かれた大学」として大きく飛躍した3年間
小林祥泰前学長 退任インタビュー

特集

1

本年4月1日に島根大学の学長に就任した服部泰直新学長。就任にあたって心に思い描くこと、目指す方向とは。理想に掲げる島根大学の姿について語ります。

学長として島根大学にかける思い

服部泰直

新学長インタビュー



島根大学として目指すもの… 「可能性を養う場として」

国立大学の役割は、時代の流れにともなう変化しつつあります。かつては、日本のどこにあっても同じレベルの高等教育が受けられることがまず第一義でした。今は、それぞれの地域の中でより専門性の高い研究を推進し、地域に貢献するという役割が求められています。

私は、こうした流れの中で重要なのはバランスだと考えています。地方国立大学として、地域に根ざして貢献していくことが第一義です。その上で、視野を広く持ちグローバルに活躍できる学生を育てていきたいと考えています。

島根大学は教育機関として、入学してくる学生の教育を第一に考える必要があります。学生は卒業後、日本中、あるいは世界へと羽ばたいて、その活躍のフィールドを広げていくことでしょう。卒業後、30年、40年と変化しながら続く社会人としての人生を支える基礎となるもの。それをしっかりと身に付けられる環境を提供することが、大学としての務めだと思っています。

基礎となる専門知識、技術がしつ

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ①教育学部 小谷 充教授 5
- ②生物資源科学部 舞木 昭彦准教授 7
- ③総合理工学研究科 中田 健也准教授 9

■COC事業レポート11

■しまだイトピックス13

■しまだいNEWS17

附属中学校の生徒が「歌唱王」優勝

「春の農場一日開放日」を今年も開催 ほか

■海を越えた島大生 20

■キャンパスチェック 21

■学生プレス研究会 23

■サークル紹介 25

書道部／サッカー部

■島根スサノオマジック紹介・島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント 26

かりしてさえいれば、後は応用です。地域や時代、社会背景に合わせて、柔軟に対応していくことができるでしょう。その応用力を養うためにも、海外を含めた学外との様々な交流は積極的に進めていくつもりです。

島根大学の強みとは…

「小ささが強みでもある」

島根大学は小さな大学ですが、法文学部・教育学部・医学部・総合理工学部・生物資源科学部の5学部があり、非常に幅広い専門領域を網羅する総合大学です。それぞれのパートは小さくとも、全てのコンテンツが揃った大学と言えるでしょう。また、小さいがゆえに、個々が持つ思いが強く、また実現しやすい環境でもあります。一言で表現すると機動力がある。

私は学生時代からサッカーを続けていますが、チームとして強くなるためには、まず個々の力を高める必要があります。そして個々がそれぞれの立場で責任を果たして同じ目標に向かっていくのがチームワークです。

大学でも、ベースとして大切なのは、学生、教職員がそれぞれの専

門領域でしつかりと知識や技術を磨くことだと考えています。それと同時に、自由な発想を大切にします。この、個と全体の融合の中からイノベーションというものは生まれるのではないのでしょうか。

大きな指針を定め、全体の舵取りをするのは学長の役目ですが、それぞれの分野・領域では個の力を自由に発揮していただきたい。島根大学は、それができる環境を備えていると思っています。

地域の方々へのメッセージ…

「島根大学のサポーターに」

地域の方々にとつて、島根大学への期待は大きいと自負しています。大学としても、その期待に応えるべく努力を続けています。

まだ地域のニーズを完全には掴みきれしていない部分もあるでしょう。これからは、今以上に大学から地域へと足を運び、身をもってニーズを把握していく

姿勢を強めていきます。

同時に、地域の皆さまにも、「自分たちで島根大学を育てる」という強い気持ちを持っていただき、遠慮なくいろいろな意見を頂戴したいと思います。島根大学は開かれた大学を目指して、「市民バスポート会員制度」や「地域学習支援ITシステム」の構築など様々な取り組みを行っています。ぜひ、こうした制度やシステムを積極的に利用して島根大学と関わりを持ち、島根大学のサポーターとなっていきたい。それが結果としてお互いの成長につながること、地域に根ざした大学としての意義があるものと考えます。



はっとり やすなお
服部泰直

1956年生まれ。1993年4月島根大学理学部助教授、1995年6月島根大学理学部教授、同年10月島根大学総合理工学部教授、2011年10月島根大学総合理工学部長、2012年4月島根大学大学院総合理工学研究科長。本年4月から新しい学長として就任。趣味はサッカーで、国体出場の経験も。

2015.4 vol.24
Shimadai

島根大学広報誌
広報しまだい

- 〈特集1〉
服部泰直新学長インタビュー …… 1
- 〈特集2〉
小林祥泰前学長退任インタビュー …… 3
- 〈特集3〉
平成26年度 島根大学研究表彰・優良教育実践表彰式を挙
行 …… 4

「開かれた大学」として大きく飛躍した3年間

平成26年度をもって3年間の任期を終え退任した小林祥泰前学長にインタビュー。自身の取り組みで特に印象に残ったことや、これからの島根大学に対する期待などについてお話を伺いました。



小林祥泰プロフィール

1946年生まれ、出雲市出身。慶應義塾大学医学部卒業後、島根医科大学医学部教授、島根大学医学部附属病院長などを経て、2012年4月より島根大学長に就任。専門は神経内科学。脳卒中データバンクほか、著作多数。

この3年間、グローバルな取り組みを行いつつ、島根の特色を活かした「グローバル（グローバル&ローカル）」な教育機関を目指して活動してきました。

この3年間で2.5倍まで増加。今こそ、海外に向けて日本文化の素晴らしさをきちんと伝えられる人に成長してほしいですね。

まず「グローバル化」に向けての取り組みとしては、海外交流協定大学を3年間で39校から

また本学では、学部を超えた横断的なグループでの研究も積極的に進めていきましたが、対外的に認知不足でした。そこでプロジェクトセンターをつくり、一般の方にも研究内容が分かるよう、活動を「見える化」することに努めました。今後も地域の課題を見出し、本当に役立つ世界的な研究が出てくることを期待しています。

ません。募集停止後の方向性を1年以上にわたり協議し、将来的な連合法科大学院構想を提案したことが、文科省で「島根大学モデル」として評価された。これは次のステップへの大きな一歩となりました。今後も組織改革にどう対応していくか先を見据えながら、幅広い活躍をされることを願っています。

60校に増やしました。また留学生と島大生との交流会を増やすのはもちろん、日本で就職したいという留学生と企業を結び就職説明会など、地域と留学生との交流の場にも努めました。同時に海外の大学への留学を積極的に支援し、留学支援学生

でも実は一番印象的だったのは、国立大学最初の法科大学院の募集停止を決断したことかもしれ

地域の皆さまへのメッセージ

この3年間、応援いただいた皆さまには心から感謝しております。今後も地域のイベント等を通して島大生との交流を深めていただき、ぜひ積極的に学生たちを地域の活性化に活用してください。それが真の意味での“地域貢献”につながると信じています。

特集

3 島根大学のいま

平成26年度 島根大学研究表彰・優良教育実践表彰式を挙

昨年9月8日、平成26年度の研究表彰および優良教育実践表彰の表彰式を行いました。これは、優れた研究や教育面での実績に対する功労を大学として評価することにより、研究意欲および教育技術の向上を図ることを目的として、平成19年度から実施しています。今回は研究表彰5名、優良教育実践表彰6名の教員を表彰し、功績をたたえました。

研究表彰者一覧

法文学部 准教授 谷口 智紀



【研究テーマ】
知的財産権取引と
課税問題に関する研究

著作「知的財産権取引と課税問題」が高く評価され、平成25年に租税法の分野において権威ある租税資料館賞・著書の部を受賞。

教育学部 教授 高橋 哲也



【研究テーマ】
高機能性の繊維関連材料開発に
関する研究

環境に対応した次世代型の繊維や紙素材の開発を行い、県内企業との共同研究を積極的に推進するなど、学術の発展や産業振興に寄与。

生物資源科学部 教授 井藤 和人



【研究テーマ】
土壌中における農業分解菌の生態と
農業が及ぼす影響評価に関する研究

農業が及ぼす影響評価と分解菌に関する研究成果が認められ、日本農業学会において平成26年に業績賞を受賞。

生物資源科学部 准教授 舞木 昭彦



【研究テーマ】
生物多様性の進化と維持機構に
関する理論研究

これまでの研究に対する功績が評価され、平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において、若手科学者賞を受賞。

総合理工学研究科 特任教授 田中 直人



【研究テーマ】
建築・都市のユニバーサルデザインに
関する研究

ユニバーサルデザインに関する長年にわたる取り組みや具体事例を記した著書を発表し、建築学会において著作賞を受賞。

優良教育実践表彰者一覧

法文学部 教授 小林 准士



学生と社会人が参加する「古文書ゼミ」において、江戸時代のくずし字で書かれた史料の解説を指導。本ゼミは活発な学習の場となっており、教育活動へ多大な貢献を果たしている。

教育学部 准教授 熊丸 真太郎



初等教育開発専攻の学生を対象にした、本学独自の基礎体験「専攻別体験」を中心となって運営。学生指導を精力的に行い、専攻学生からも高い信頼を得ている。

医学部 准教授 鬼形 和道



医学科学生の卒前臨床教育、研修医の卒後臨床教育ならびに関係する様々な教育環境の準備・調整に尽力。また、医学教育に係る国際交流の調整、実施運営にも貢献している。

生物資源科学部 准教授 宗村 広昭



「反転授業」と呼ばれる学習方法を導入。講義ではアクティブラーニング形式をとることで、学生の予習・復習時間の確保や自発的な学習を促すなど、教育改善を推進した。

総合理工学研究科 准教授 山本 真義



平成25年度授業アンケートにおいて当該領域教員の中で総合満足度1位を獲得。指導学生による多数の論文・学会発表があり、高い研究指導力が学生の能力向上につながっている。

法務研究科 特任教授 大賀 良一



日弁連副会長を経た豊富な経験と見識に基づき、自学自習を促進させる教材の使用や授業方法の工夫を行う等、法曹を目指す学生のモチベーションを向上させ、実践力を養っている。



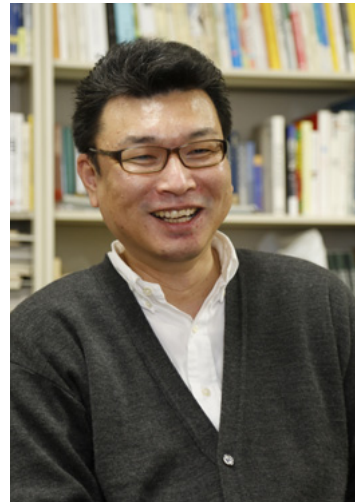
学問としての デザインを学び、 教育へと昇華する

個々の感性によるものとして捉えられがちな「芸術」という分野を、どのように学校教育へと展開するのか。デザイナーとしての現場経験もある小谷教授に美術教育についてのお話を伺いました。

教育学部 芸術表現教育講座 教授

こたに みつる
小谷 充

教育学部を対象にした演習と実習のほか、専門以外の学生にも広くデザインを知ってもらうために教養の科目も開講。デザインの論理を学ぶことで感覚を磨くだけでなく、論理的な思考も身に付けてほしいですね。



美的感覚は誰でもトレーニングで鍛えることができる

一般的に「感性」や「ひらめき」など、特別な才能が必要と思われるが、ちな芸術やデザインという分野。しかし、その創造の過程を丹念に分析すると、多くの場合は客観的に説明することができる。行為としてのデザインを見つめ、理論や美術教育の方法論へとつなげるこ

とが小谷教授の研究テーマの一つ。「制作会社のデザイナーから転身し、大学の助手になった当初は、現場での経験や制作技術などを学生に教えることが役割だと思っ

ていました。しかし、教員を指す学生に伝えるべきものは、職人的なモノづくりの知識とは違うと気付きました」（小谷）。

学校教育で子どもたちを指導するためには、学生自身が作品を生み出すことよりも、そのプロセスや「美」を論理的に学ぶことが重要となる。

美の仕組みを知るために、1年生の時にはまず「目を鍛える」ことから始める。手描きで作図しながら、美しいと感じる形や色などのように構築されるのかを分析。その過程で問題を発見し、論理的に解決していくプロセスは算数や理科とも共通している。色や形を理想に近づけるといったトレーニングを積むことで、美しいという感覚自体を磨くことが可能となる。

ワークショップで地域と学び、成長する

教室での実習のほかに、特に力を注いでいるのは、毎年夏に島根県立美術館の企画展と連動して実施するワークショップ。学生は4月から7月まで週2回のペースでミーティングをし、企画を立

案。試作、制作プロセスの検討、チラシのデザインを含めた広報までを主体となっていく。平成26年のワークショップは「浮世絵」企画展に合わせた「浮世絵ランプ」だったが、この内容が決定するまでは



細かな木版に色を刷り重ねた試作品。検討内容は事前に学生が準備する。



参加募集のチラシも学生の作品。



ワークショップには子どもから大人まで幅広い年齢層が集まる。



教養の科目「映像タイポグラフィ論」の授業風景。様々な学部、学年の学生170名程度が受講する。

注目キーワード

タイポグラフィ

印刷のために活字を組み合わせて使用する技法。もともとは活版印刷術を表していたが、現在では、印刷技術のほか書体のデザインやその選択・配列などの活字を用いる表現全般を意味する。意味を伝えると同時に、図形でもある文字。その配列や選択する形を調べることで制作者のスタイルやコンセプトをも読み解くことができる。



映画「犬神家の一族」のタイポグラフィなどを解説した小谷教授の著書。

1か月半を要した。ワークショップでは小学校低学年から70〜80代の方までが対象となるため、学生は教育実習とは異なり、幅広い世代に向けた伝え方の難しさを学ぶ。

小中学校の授業では問題解決の過程を重視するため、クオリティを必ずしも求めるわけではないが、ワークショップでは、参加者が心から楽しめるように企画全体に高いレベルを要求する。企画の流れも学生が考え、4日間で全ての学生が必ず1回はメインスピーカーを務める。「このワークショップを

経験すると、学生は自信が付き、見違えるくらい動けるようになる」(小谷)と語るように、学生は4日間のうちで改善を繰り返し、主体的な物事の進め方を身に付ける。ワークショップのメリットは学生側だけではない。毎回好評でリピーターが多く、美術館の来場につながっているほか、地域の生涯学習にも貢献している。

学生に「デザインを通じて物事の本質を身に付けてほしい」と言う小谷教授は、対応力に優れた教員を育てることを目標に、理論と実践を踏まえた指導を続けていく。



生物多様性の 進化・維持メカニズムを解明し、 生態系のしくみの理解へ

平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した舞木准教授。受賞の対象となった研究内容や、新たな目標について伺いました。

生物資源科学部
生物科学科 准教授

もうぎ あきひこ
舞木 昭彦



豊かな自然が色濃く残る島根県は、生態学を研究する学生にとって大変恵まれた環境だと思います。自然に触れ、幅広い分野に興味を持ち、感性を養ってください。

や多種共存のしくみなどを研究。

生物学の長い歴史において、 世界で初めて生物多様性の維持の謎を解明

地球上の生態系には多様な生物が共存しているが、その生物同士のつながり（＝生物多様性）はどのように維持されているのか。これまでほとんど分かっていなかった生態系の謎に新しい仮説を提唱したのが舞木准教授である。

これまで数多くの研究者が「捕食者と被食者」だけからなる食物網や、「植物と送粉者」だけからなる共生関係など、一つの種類のネットワークだけに注目してきたが、舞木准教授は、現実の生態系には多様な種類の相互作用が混在していることに注目。数理モデルを用いて、「敵対（捕食）もしくは寄生」「競争」「共生」などの多様な相互作用がバランス良く混ざっていることで複雑な生態系が維持されやすくなる可能性があること

を突き止めた「生物多様性の進化と維持機構の理論研究」を発表。その研究活動は米国科学誌「Science」に掲載されるなど、世界中から高く評価された。

「僕の興味は、どうやって自然生態系がバランスを保っているのかということ。生態系の仕組み自体がきちんと理解できないと、われわれ人間が何か環境を変えた時や、外来種が入ってきた時に何が起こるか予測できない。だからこそ、生態系の仕組み自体をちゃんと研究して理解しておくべきなんです」（舞木）。

自然界のことを理解しようと研究していることが、結局は人間社会が上手くいくためのヒントにつながるのではないかと考えている。

「数理モデル」で、誰も見たことがない新しい世界を

舞木准教授が研究に用いている「数理モデル」とは、コンピューター上で現実の世界を理解するた

めの道具である（詳しくは左記「注目キーワード」参照）。なるべく理想化した条件のもと、仮想

自然界の様々な種間相互作用



敵対関係 捕食もしくは寄生

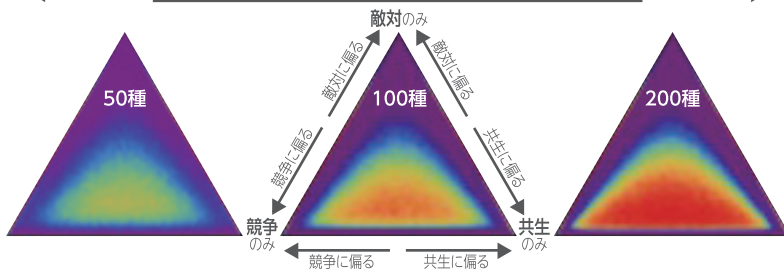
異なる生物の助け合い

共生関係

食物や縄張り争いなど

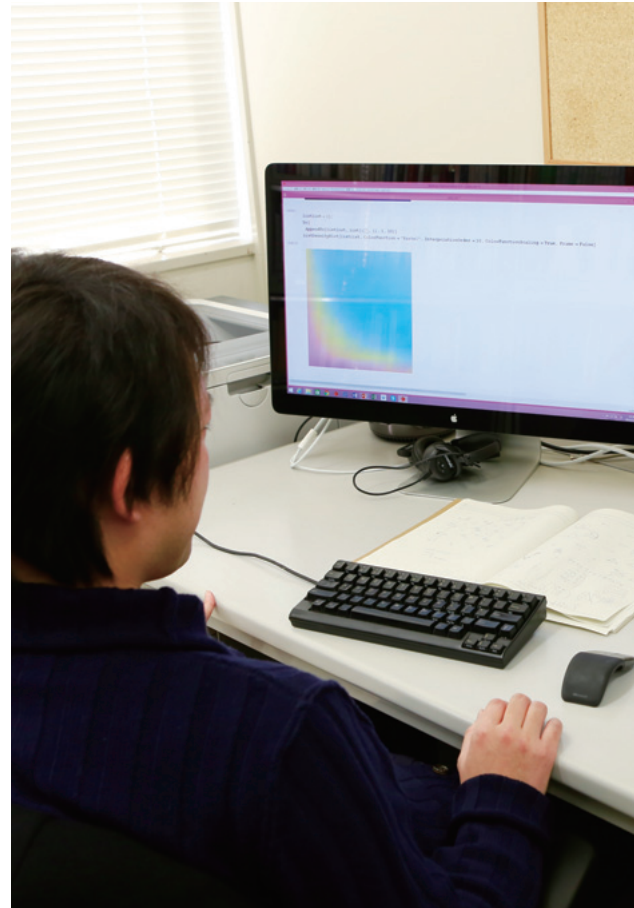
競争関係

単純な生態系 ← 相互作用の多様性と生態系の安定性 → 複雑な生態系



相互作用の多様性がある生態系ほど頑丈。さらにその生態系は複雑なほど頑丈になる。

生態系の安定性
低い 高い



数学解析とコンピュータシミュレーションによって、生物の進化

注目キーワード

「数理モデル」とは、現実の世界で起きる様々な現象を、方程式などの数学的な形で表現すること。数式にすることで、その性質をより深く知ることができ、またある操作をした時に何が起こるか予測することができるようになる。その用途は幅広く、舞木准教授のような生態学だけでなく経済学や心理学、天文学や言語学など多岐に渡る分野での活用が期待される。

無限の可能性を秘める「数理モデル」

的な世界を作り、自分が知りた
いことにポイントを絞って調べる、
つまりは「実験」をコンピュータ上
で行う、とイメージすると理解
しやすいかもしれない。

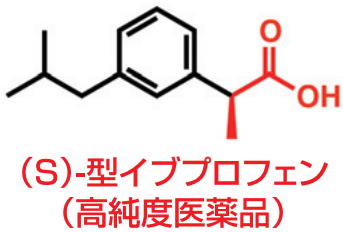
自然界の研究アプローチとして、
実験や観察をイメージされる方
も多いかもしれないが、例えばい
ろいろな生物の個体数がどのよ
うに変化しているかを、実際にフ
ールドに出て追跡するのは非
常に大変な作業。しかし「数理モ
デル」を用いれば、様々な仮想世
界を作って分析することができ
るため、より少ない労力と費用
で自然界の仕組みをより深く理
解することが可能となる。

「数理生物学の魅力は、紙と鉛
筆とパソコンさえあれば研究で
きるということ。自分のアイデ
アや世界観を自由に表現でき
るのも魅力的」と語る舞木准教
授。研究の面白さは、答えがあ
るかどうかわからないため、自
由に考えられることだと言う。
今後の目標は、「生態系」自
体を作るということ。「もし実
現したら、生態系を作るのに何
が必要か分かるかもしれないし、
人工生命の研究等にもつながる
かもしれない。時間はかかるだ
ろうが、ぜひ挑戦してみたいで
すね」(舞木)。

舞木准教授の研究の日々は続く。

抗炎症薬の製造

- ラセミ体から鏡像異性体の有効成分(S型)と不純物(R型)を選択的に合成(合成効率はほぼ100%)
- NSAIDsの薬理活性が2倍以上に向上



不純物を含まない 非ステロイド性抗炎症薬の 製造に成功

中田准教授が専門とする「有機合成化学」は、医薬品から機能性材料まで幅広い物質の創製に関わる学問です。その具体的な研究内容について伺いました。

総合理工学研究科
物質化学領域 准教授

なかた けんや
中田 健也

実験で困難に直面し「いかに克服するか」を考えているうちに、ふとした瞬間に活路が見いだされることがあります。この一瞬を追い求めるのが、研究の醍醐味だと思います。



短行程で省エネルギー、不純物の生産を抑えた 環境調和型のNSAIDs(エヌセイズ)製造へ

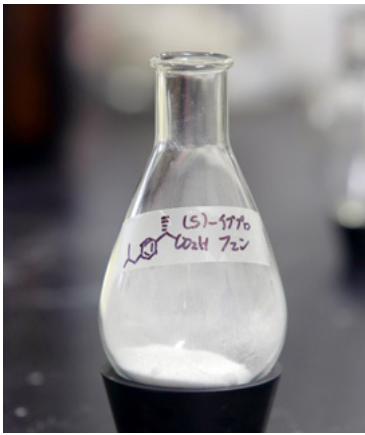
市販の風邪薬や頭痛薬の成分としてよく耳にする「イブプロフェン」や「ロキソプロフェン」。これらは全て「非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)」として世界中で大量に生産・利用されている。しかし、一般的にNSAIDsには(S)型と(R)型の2つの鏡像異性体(有効成分と不純物)が混合しており、有効成分はその半分以上含まれていない。

この度、中田准教授が開発したのは、有効な方の鏡像異性体だけを取り出す触媒反応「不斉エステル化反応」の技術を活用し、不純物を含まないNSAIDsの新しい製造法。これによって、①同じ量でも薬理活性が高い②無駄な物を服用しなくて済む③無駄な物を入れずに生産できるため経済的にも有利になる、等のメリットがある。

「すでに米国では、医薬品をラセミ体として製造するならば、不要な鏡像異性体が完全に無害であることを証明することを義務づけるラセミックスイッチの指針を通達する等、単一の異性体のみを創製することが社会的にも求められています」(中田)。

同研究グループでは、さらにこの手法を活用し、特異な生理活性を有するセントロロピンの効率的な合成を達成。この研究成果は、特筆すべき内容として化学関連のニュースサイト「Chemistry Views」で紹介されるなど大きな反響を呼んだ。

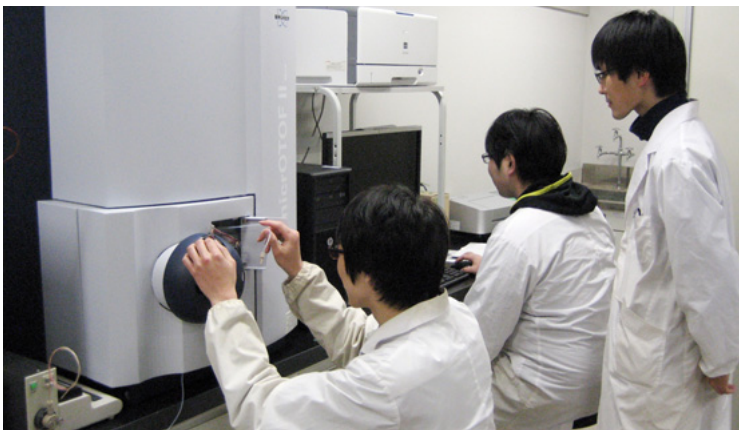
「ただ、私たちには自身の力で研究成果を商品化・工業化する力はありません。まずは研究成果を広く公表し、論文を見た誰かに『この技術を使いたい』と想っていたく必要がある。とにかく発信し続けることが大切なんです」(中田)。



不純物を含まないNSAIDs。同じ量でもよく作用し、生産効率も高いため、世界中から注目を集めている。

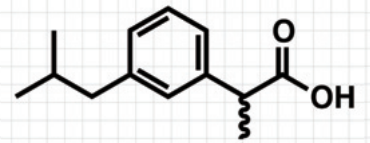


この成果は特筆すべき内容として学術誌の表紙を飾った。



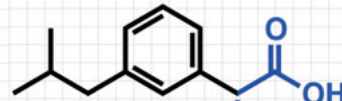
高分解能質量分析装置:合成した化合物を高感度で解析できるため、極微量の精密質量を正確に測定することができる。

不純物を含まない非ステロイド性



イブプロフェン(NSAIDs)
ラセミ混合物

化学的手法; 不斉合成



(R)-型イブプロフェン
(不純物)

優秀な人材を世に輩出し、地域に貢献

中田准教授は、自らが最先端の研究を遂行する姿を積極的に学生たちに見せるようにしている。それが、学生たちの指導につながると考えているからだ。

「最先端の研究に関わることは、学生にとって魅力につながると思うんです。学生はまだ自分で研究テーマを決めるのは難しい。教員から与えられたテーマに作業仮説をたて、実証していく過程をしっかりと学んで、社会で生かしてくれたら」(中田)。

研究室のルールは「挨拶をする」「時間を守る」「整理整頓」の3つだけ。規則正しい生活をし、健全な精神を養うことで、初めて素晴らしい研究が行え、物事を成し遂げるための身構え

や心構えを身に付けることができる。そして、優秀な人材を世に輩出することが本場に求められる研究であり、地域貢献、さらには社会貢献につながると考えている。

「私の研究課題は基礎的な学問領域に近いため、得られた成果をすぐに実社会に還元することが難しい反面、世界中の全人類に貢献可能な分野といえるかもしれない。実用面において将来どのような役に立つのかを広く一般に紹介し、学術面と人材育成面の両方から地域に貢献していきたいです」(中田)。

今春、新たな研究室を立ち上げる中田准教授。より深化する研究活動に注目である。

注目キーワード

【非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)とは?】

抗炎症作用、鎮痛作用、解熱作用を有する薬剤の総称で、一般的には疼痛、発熱の治療に使用される。解熱鎮痛薬とほぼ同義語として用いられる。強力に炎症を抑えるが副作用が強いステロイド薬と比べ、NSAIDsは作用は弱いけれど副作用も少ない。今回の中田准教授の研究によつて、これまでより薬理活性が高いNSAIDsが店頭に並ぶ日も近いかもしれない。

病院で処方される主なNSAIDs

- アスピリン(バファリン®など)
- ロキソプロフェン(ロキソニン®など)
- ジクロフェナク(ボルタレン®など)

オープンストリートマップに調査データを反映。



「まち歩き班」によるAED情報の収集。

地域に貢献する人材とプログラムを開発

Ruby・OSSプロジェクトセンター

コピーや配布が可能なソフトウェアを意味する「OSS (Open Source Software)」プロジェクトセンターでは松江で誕生した「Ruby」を中心に、産官学で連携してOSSの研究・開発をしています。

昨年は、特定のエリアや建物の位置情報をマッピングし、誰でも活用できるオープンデータとして公開する「松江オープンデータプロジェクト」を開始。まず取り組んだのは、自動体外式除細動器(AED)のマップ作りで、プログラミングを専攻する学生だけではなく、文系の学生や一般市民も含めて約30人が参加しました。実際に街中を歩き、AEDの設置場所を確認した後、「オープンストリートマップ」に調査データを反映。スマートフォンなどからいつでもAEDの位置情報が見られるようになりました。

IT企業で活躍する人材育成を目的として2007年に始まった本プロジェクト。今までは自由科目の一つでしたが、今年度より副専攻プログラムとなり、新たな履修制度がスタートします。今後さらに充実した人材育成と経済・産業面での地域振興への取り組みを推進していきます。

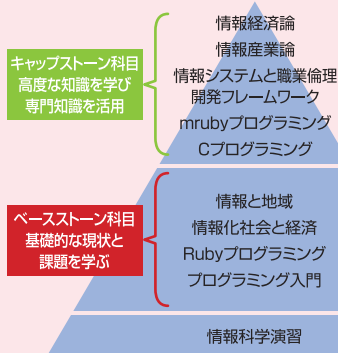


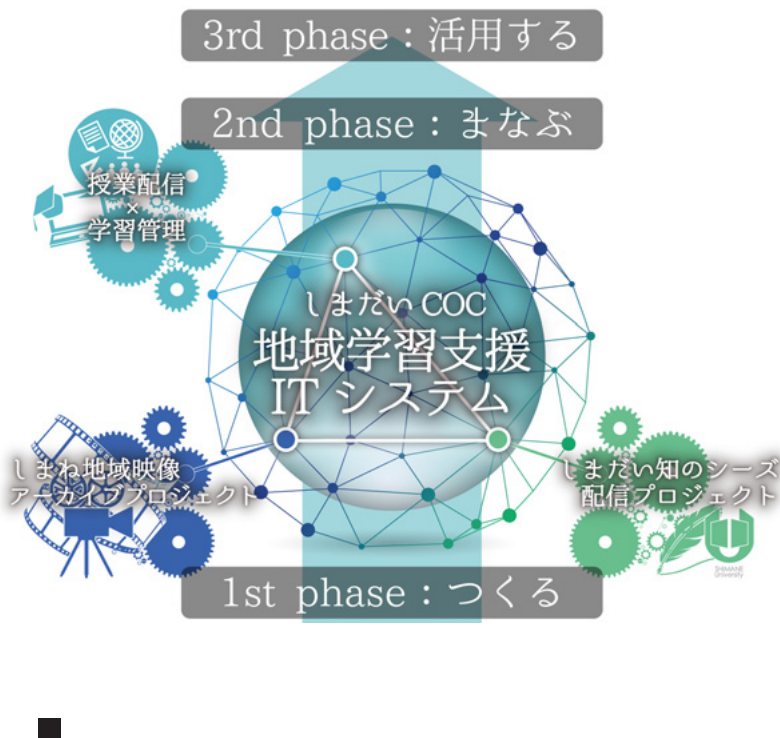
Ruby・OSSプロジェクトセンター長
島根大学 法文学部教授 野田 哲夫

OSSを産業として確立させるためには、プログラムだけではなく、経済や社会などを学ぶことも重要。研究では学部を横断して幅広い学生に参加してもらっています。さらに、今年から副専攻プログラムになることで、OSSをより体系的に勉強してもらうことが可能になりました。また、東京や地元のIT企業の方を講師として招き取り組みは行っていますが、今後はインターンシップも重点的に進めたいと思います。

卒業生が地元企業で活躍したり、ITエンジニアのコミュニティの核になっていたりしている姿を見ると、徐々に成果が表れているのを感じ、二層プロジェクトに力が入りますね。

■Ruby・OSSセンター 履修プログラム





地域学習支援ITシステム

地域課題学習支援センター

島根大学COC事業では、主体的に地域について学ぼうとする学生や市民。パスポート会員を支援して、この一環として、島根県諸地域に関する授業や公開シンポジウム等を収録し、「地域学習支援ITシステム」を用いてインターネット上で配信しており(しまだい知のシーズ配信プロジェクト)、登録者は「島根学」を中心とした地域学習コンテンツをいつでも視聴することができます。今後はコンテンツをさらに増やし、地域学習・地域教育に活用する予定です。

また地域には、その土地の様子を記録した様々な地域映像があります。これらは地域の特色やアイデンティティの核となる貴重な記憶であり、地域を知るための重要な資料となりますが、映像環境の変化から常に散逸の危機に晒されています。そこで地域課題学習支援センターを中心に、「しまね地域映像アーカイブプロジェクト」として島根県各地で制作された様々な地域映像をデジタル保存。可能なものについては地域学習支援ITシステムで配信して、地域活性化や地域課題解決のための利活用につなげていきます。

主な地域学習コンテンツ

- 山陰地域活性化に向けたJR 西日本の取組について (内山 興氏、西日本旅客鉄道株式会社松江支店長)
- 島根には本物が在る (錦織良成氏、映画監督)
- 雲南市における「若者チャレンジ」の取り組み (速水雄一氏、島根県雲南市長)
- 公開シンポジウム「山陰地方の強靱化にむけて」 (島根大学自然災害軽減プロジェクトセンター)
- 島根半島四十二浦巡り講演会 (島根大学くびきジオパークプロジェクトセンター)

利用方法

島根大学
「地(知)の拠点整備事業」HPからアクセス!
<http://www.coc.shimane-u.ac.jp/>



収録コンテンツの視聴について

【一般公開】どなたでも視聴できます。
【登録者のみ*】視聴にはログインが必要です。
*島大生、教職員、市民パスポート会員、その他本学が認めた方。
*市民パスポート会員の方は、別途利用申請が必要です。

島大の多彩な活動を
チョイスしてお伝えします

しまだいい

トピックス



▼「大学発ベンチャー等支援に関する協力協定書」を締結

山陰合同銀行が大学発のビジネスを支援

12月19日、島根大学と山陰合同銀行との「大学発ベンチャー等支援に関する協力協定書」の締結式を行いました。

今回の協力協定書の締結は、

山陰合同銀行による大学発のベンチャービジネスをサポートする『産学連携ファンド』『しまね大学発・産学連携ファンド』の設立によるもので、同ファンドにより本学が保有する特許等の知的財産及び研究成果等の大学シーズを活用した事業化への取り組みに対して、資金面・経営面でのサポートを受けることを可能とするものです。

これを機に、本学は山陰合

同銀行との協力関係を一層深め、地域での新たな事業の創出、地域経済の発展に寄与していきます。



▼第8回「島根学」出雲神話を舞台に描く、能と神

装束を中心に 能の世界を伝える

11月28日、第8回「島根学」として、シテ方金春流能楽師の櫻間右陣氏が「出雲神話を舞台に描く」能と神 装束を中心に

〜と題して講義をされました。

現在ユネスコの無形文化財に登録されている能は、約650年前に観阿弥・世阿弥親子により大成されたもの。能の歴史をはじめ、神道や仏教など当時の習

俗をもとにした様々な決まりや、能舞台の鏡板に松が描かれる理由、着用した面の角度などについて説明。また、二人の学生に装束を着用させて、装束や扇の骨の色、舞台の来歴などについても解説されました。



▼オックスフォード大学マーク・ハリソン教授の特別講演会

西洋医学と東洋医学の出会いを語る

島根大学はオックスフォード大学及び北京大学等との共同研究プロジェクト（「東アジア太平洋歴史文化研究所」〔仮称〕）を計画しています。その研究交流の一環として、オックスフォード大学マーク・ハリソン教授が来学し、12月16日に本学出雲キャンパスで「西洋医学と東洋医学の出会い」をテーマにした特別講演会を開催。

西洋医学がインドや中国などの東洋へどのように受容されたかという歴史に加えて、世界で初めて麻酔薬を使った手術に成功したことで知られている、日本の華岡青洲の医術についても語られました。



コンテンツが豊富で見ていて楽しいものばかり。
次号が楽しみ！
(大阪府大阪市・50代女性)

引き続き、緊急性・重要性に配慮した
学部トピックスを掲載してほしい。
(島根県出雲市・50代男性)

「市民パスポート会員」に登録。
小林教授の公開講座を望みます！
(島根県大田市・60代男性)

▼ 平成26年度日本学術会議
中国・四国地区会議公開学術講演会を開催

産官学連携プロジェクトの事例を発表



み事例として、松江発プログラミング言語Ruby活用プロジェクト、くにびきジオパーク・プロジェクト、ラマン分光学の医療応用プロジェクト、神の粒子「ヒッグス粒子」プロジェクトが研究紹介を行いました。また、松江市出身の歌手で松江市ビジョン懇話会委員の浜田真理子氏によるお話とミニコンサートも実施しました。

12月6日、松江市のくにびきメッセにおいて、日本学術会議中国・四国地区会議と島根大学が主催で「産官学連携による地域活性化」をテーマに、平成26年度日本学術会議中国・四国地区会議公開学術講演会を開催しました。

「人口減少時代とまちづくりの課題」と題した基調講演のほか、本学における地域活性化に向けた産官学連携の取り組み



▼ 浜田市と包括的連携に関する協定を締結

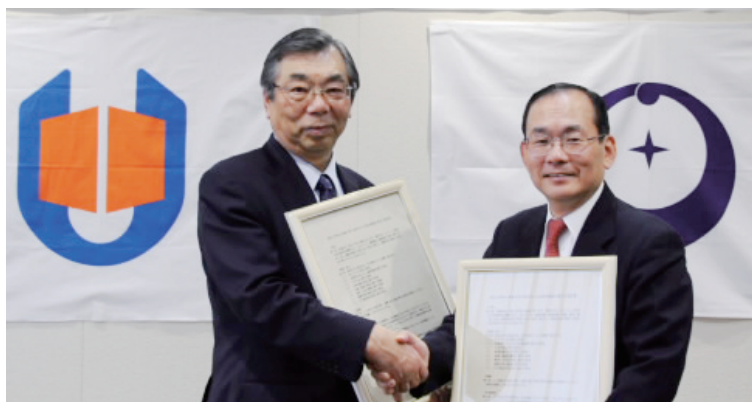
地域社会発展のため緊密な連携を推進

2月5日、浜田市役所において、小林祥泰前学長、久保田章市浜田市長のほか関係者が出席し、本学と浜田市との包括的連携に関する協定の締結式を行いました。

―等が取り組む基礎研究を活用した連携により、水産業を中心とした産業振興の発展に期待する」、久保田市長から「今回の協定により広い分野での連携が可能となり、今後の浜田市の発展の原動力となる」と、将来の展望が語られました。

浜田市とは、これまでにおいても平成22年10月に生物資源科学部と連携協定の締結を行い、人材育成、農林水産業の振興及び地域資源の活用等の分野で連携を進め、農林水産業、食品加工業の従事者を対象にした「人材育成講座」を協働し、企画・開催してきたところですが、この度の包括的連携に関する協定は、水産業を中心とした産業振興に関する連携等、将来に向けた地域社会の発展のため、本学と同市がより緊密な連携・協力を推進していくものです。

締結式では、小林前学長から「本学のプロジェクトセンタ



読者の声

広報しまだいVol.23に
寄せられた声をお届けします。

医学部や総合理工学部など、各学部の
様々な活動を知ることができました。
(島根県出雲市・70代女性)

優秀な人材育成を望み、いつまでも
輝きのある島根県でありますように。
(島根県出雲市・50代女性)

▼ 松江キャンパスで構内遺跡第21次発掘調査を実施

縄文時代の堆積層や土器など発見

島根大学ミュージアムでは、「文化財保護法」に準拠して、大学構内（松江・出雲両キャンパスほか）における埋蔵文化財の保護活動を行っています。昨年の11月から12月にかけて、松江キャンパス第1体育館の東側で、開発工事に伴う発掘調査を実施しました。

約五千年以上前の縄文時



▲発掘調査の様子

▼出土した縄文土器



代前期、海水が陸地の奥深く浸入する「縄文海進」の影響により、松江キャンパスの北側は入江となっていました。調査では、この時代の入江の堆積層が見つかり、海面変動の様相を復元するうえで貴重なデータを得ることができました。ほかにも、弥生土器や、縄文時代の石器・土器なども発掘。出土した遺物は、今後、ミュージアム本館展示室で公開する予定です。

▼ 第2回 島根大学長杯 英語スピーチコンテストを開催

個性あふれるスピーチを披露

12月14日、外国語教育センター主催による「第2回島根大学長杯英語スピーチコンテスト」を開催しました。今年も、昨年の2倍、18名の発表者（法文8名、教育1名、総合理工4名、生物資源1名、医学部4名）があり、それぞれ個性あふれる英語スピーチを

披露してくれました。また、寒い天気にもかかわらず、聴衆も80名を超える参加者があり、昨年よりもさらに盛り上がったイベントとなりました。



▼ 島根大学ミュージアム特別講座 in 大阪 「古代出雲文化へのいざない」を開催

熱心に聴講する受講者で会場満員！

3月8日に大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で開催される「古代出雲文化フォーラムⅢ」のプレフォーラムとして、10月18日と12月20日、大阪市北区西天満の島根ビルディングにて、「島根大学ミュージアム特別講座 in 大阪」を開催しました。いずれも会場は満員となり、受講者の皆さまの大変熱心に聴講する姿がみられました。「古代出雲文化フォーラムⅢ」の様



「今を輝きながら生きることは誰でもできる」と心新たに思いました。
(島根県松江市・60代女性)

多岐地域での都市農村交流会を考える会の報告会に参加して大変良かった！
(島根県出雲市・70代男性)

島大生の活躍は頼もしく、島根県人として誇りに思います。頑張れ！
(島根県浜田市・70代女性)



水泳部が伝統の「寒中水泳」を実施

寒さに耐え140メートルを完泳

1月14日、島根大学水泳部の伝統行事である「寒中水泳」を実施。男子9名、女子6名の水泳部員が参加しました。

昼過ぎに大橋川に集合した部員たちは、小林祥泰前学長と正岡さち顧問教員から激励を受けた後、大橋川南詰の岸から次々と川に入り約140メートル先の対岸を目指し泳ぎ出しました。大橋の上や沿岸から大勢の方々が



見守る中、お互いに掛け声をかけながら、4分20秒かけて全員が完泳。比較的穏やかな天候で、川面には波もほとんどなく、部員たちの泳ぐ水面には扇状の美しい波紋が描かれました。上陸後には小林前学長から温かいお茶を手渡され、部員たちは肌が真っ赤になり寒さに震えながらも、泳ぎきった達成感を味わっていました。

お知らせ

LINEアカウント& Facebookページ開設 最新情報や学内NEWSを発信!



イベントのお知らせや入試情報など、島根大学の様々な情報を定期的にお届け。学長、教職員、学生が島根大学の「今」を伝えます。

■LINEはこちら

ぜひ本学公式アカウントへのお友達登録を
していただき、ご活用ください。

【「友だち」に追加する方法】

- ①「その他」から「友だち追加」を選択。
- ②「QRコード」を選択し、右のバーコードを読み取る。
または「ID検索」を選択し、「@shimane-univ」を入力。
- ③「島根大学」と表示された画面で「追加」を選択し、完了。



■Facebookはこちら

下記URLにアクセスしてください。

<https://www.facebook.com/ShimaneUniv>

お知らせ



今年も「ひろしまフラワーフェスティバル」に ブースを出展します!

毎年5月3日～5日に広島市で開催されている「ひろしまフラワーフェスティバル」。昨年初めて島根大学としてブースを出展し、多くの方にご来場いただきました。

今年も古代出雲文化を中心に、本学の教育・研究についての情報を発信する機会としてブースを出展します。ぜひ、お越しください!!

■開催日:平成27年5月3日(日)～5日(火)

■場 所:広島県広島市中区 三井ガーデンホテル広島前
三川町ブロック(予定)

読者の声

各学部の研究内容について、もっと知りたいです!
(奈良県奈良市・70代男性)

クロスワードなど脳トレコーナーを希望。
問題をたくさんお願いします。
(島根県大田市・60代女性)

歌の日本一を決める全日本歌唱力選手権「歌唱王」優勝 島根大学教育学部附属中学校 小豆澤英輝くん(3年生)

昨年12月に日本テレビ系で放送された第2回「歌唱王」。全国1万2,229人が応募する中、附属中学校3年生の小豆澤英輝くんが予選を勝ち進み、テレビの生放送で行われた決勝戦で優勝を果たしました。

優勝は夢への通過点。オンリーワンの歌手を目指して！

歌の先生である母親の影響もあり、小さな頃から夢が歌手という小豆澤くん。一昨年に開催された第1回「歌唱王」は腕試しにという軽い気持ちで挑戦しましたが、事前審査等を見事に突破し、東京のテレビ局で行われる本選に出場することができ

ました。しかし、変声期が終わった直後ということもあり、満足のいくパフォーマンスができずに準決勝で敗退。その時の悔しい思いが忘れられず、母親の指導の下で発声練習からやり直し、特訓を重ねました。

準決勝では目標としていた決勝進出に対する強い思いから、緊張で音を外してしまつたものの、24人中4番目の得点で勝ち抜くことができました。迎えた決勝で歌った「Only Human」はアカペラで始まる難しい曲。しかし、決勝に進めたことで気が楽になった小豆澤



くんは、「テレビ出演で歌った中では一番うまく歌えました」との言葉通りに美しく澄んだ歌声を披露して、1,100点満点中1,064点という高得点で優勝の栄冠を手に入れました。

想像もしていなかった優勝という結果については、街で声をかけられたり、自身のブログに書き込まれたお祝いメッセージを見たりして、ようやく実感が湧いてきたとのこと。「うれしいですが、ここはまだ第一歩」という小豆澤くんは、自分らしさを出せる歌手になるという夢のため、優勝後も自分の歌を磨き続けています。

歌って踊れて、 詞や曲も書ける プロが理想

歌うこと以外にダンスも趣味です。また、ミッキーマウスが大好きで、かばんやお弁当箱などの持ち物はミッキー柄。「歌唱王」で上京した時もディズニーランドに行きました。ダンスはマイケルジャクソンのDVDを見て家で練習しています。運動会では応援団長としてダンスの振り付けを担当しました。学校の勉強はあまり得意とは言えませんが、詞も書ける歌手になりたいので、高校では国語と英語に特に力を入れて勉強したいと思います。



教育学部の学生と附属中学校の生徒が「附属English Day」を開催



▲抹茶の立て方を説明しながら、和菓子と一緒に振舞う。

島根大学教育学部附属中学校英語科と教育学部言語文化教育講座英語教育コースは、平成22年度から年に一回、協働プロジェクトとして「附属English Day」を開催しています。本プロジェクトの目的は、中学生の英語運用能力の向上と国際理解の促進を図ると共に、英語教育コースの学生に中学生と留学生の支援を通して教育実習の場とは異なる学び

の場を提供することです。今年度は12月8日、9日に島根大学の外国人留学生をはじめとした海外からのゲスト16名を附属中学校に招き、3年生の生徒が抹茶でおもてなしをしたり、こまの回し方を説明して一緒に遊んだりするなど、日本の文化や古くからの遊びを体験してもらうワークショップを実施しました。

参加した中学生にとって、外国の方に何をどのような形で伝えるのか、楽しんでもらうにはどうしたらいいのかなど、相手を主軸において物事を考え、英語で発信する力を身に付ける良い機会となりました。また、留学生からも「日本の学校の様子を知り、中学生と交流ができる貴重な体験

附属中学校の生徒3名が「しまね数リンピック」に上位入賞



▲こまの回し方を教える中学生。

「と」の音が寄せられ、交流を楽しむ様子が見られました。日本の英語教育が大きく変わろうとしている今、附属中学校や英語教育コースの学生にとって、このプロジェクトが英語学習への貴重な動機づけとなり、グローバル人材の育成に貢献することを期待し、内容のさらなる充実を図っていきます。

小・中学生の「学力向上プロジェクト」の一環として島根県教育委員会が平成21年より実施している「しまね数リンピック」。平成26年度は島根大学教育学部附属中学校から、本誌22号で紹介した中平くんを含め3名の生徒が最優秀賞と優秀賞を獲得しました。

中学生
個人の部

最優秀賞・金メダル	3年	橋本 竜馬くん
優秀賞・銀メダル	3年	中平 征志くん
優秀賞・銅メダル	3年	吉廣 七星さん



▲左から 橋本くん、中平くん、吉廣さん。

本庄総合農場「春の農場一日開放日」を今年も開催

島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター本庄総合農場では、研究、人材育成、そして地域貢献の推進を目標に、フィールドを中心とした各種教育・研究を行っています。農場の技術職員の皆さんに、その役割や、春の農場一日開放日の見どころなどについて伺いました。

最初は、島根大学の農場を知っていたり、ためめの農場祭りにからスタートした「一日開放日」。毎年開催しており、多くの方から親しまれるイベントに成長しました。



梶川桃子さん

「特に春は、多品種のサクラを觀賞できる

とあって、大変な人気なんです」と語るのは、技術職員の梶川桃子さん。約150種・



500本近いサクラを植栽しているのは全国の大学でも珍しく、開花のコントロールなどの研究や品種保存を行っています。また、農場は学生実習や農業生産の向上を図るための教育・研究に使用されるだけでなく、市民を対象とした公開講座も行った



小數賀仁也さん



「本庄総合農場の一日開放日を通して、大学の研究について

ただき、さらには島根大学が地域社会に貢献していることをアピールしていきたい」と、技術専門職員の小數賀仁也さん。ぜひこの機会に、皆さまも

本庄総合農場を訪れてみてはいかがでしょう。



本庄総合農場「春の農場一日開放日」

■日時:平成27年4月18日(土)
9:00~16:00(予定)

■場所:島根大学生物資源科学部本庄総合農場
(松江市上本庄町2059)

■お問合せ先:0852-34-0311
(生物資源科学部・本庄総合農場)

一畑バス「美保関ターミナル」行き、旭の森(ひのもり)バス停下車。農場入口まで徒歩5分、主会場まで約15分。



不安は現地で解消 海外での学びは 得るものが大きいことを実感

秋月 光さん
(アメリカ「ワシントン大学」へ留学/
医学部6年生 ※取材時)



高校生の頃に地方の医師不足について考え始め、医学部に入学しました。アメリカでも状況は似ていて、留学先のワシントン大学は、地域医療の教育プログラムがとても進んでいることで知られています。

留学先では総合内科のチームに入りました。実際に診断なども行うので、コミュニケーションに不安がありました。医学用語は英語ですし、行ってみるとなにかなるものです。また、臨床実習で直接患者さんと会話した時にも、日本から来たのと知ると、皆とても優しく接してくれました。



ホームパーティでの集合写真(ホームステイ先のDr.Paauwのお宅)。

アメリカと日本の医療で違うところは、一人ひとりの患者さんにかかる時間が長いということです。それに学生がとても積極的で、大いに刺激になりました。私は救急医療を志しているのですが、現地で専門の先生に実際の話をお聴きしたことも、大変身になったと思います。

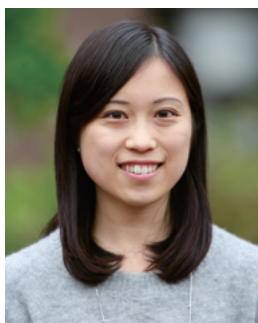
海外留学には多少の不安を感じると思いますが、行けば行っただけ得るものも大きいと実感しています。少しでも興味を持っている方は、ぜひ積極的に機会を見つけて海外に出て欲しいですね。



留学生・留学体験者大集合!
海を越えた島大生

海外の現状を知ること 逆に日本の医療の課題にも 気付かされた

内藤 由紀さん
(タンザニア「ムヒンビリ大学」へ留学/
医学部6年生 ※取材時)



ムヒンビリ大学はタンザニアのダルエスサラームという大きな都市にあります。私はそこの国立病院の小児科病棟で、1カ月間、授業と実習を受けてきました。ヨーロッパのボランティア医師や、熱帯特有の病気を研究に来ている

医師の方々も一緒に、より多くの視点で学ぶことができましたと思います。

向こうでは、デング熱やマラリアなどの感染症の危険があり、蚊に刺されないようにすることには気を使いました。



新生児蘇生法の授業の様子。

でも、食べ物も美味しかったし、毎日元気に過ごして、友だちも大勢つくることができました。

私は出身が神戸なので、幼少の頃に阪神淡路大震災の経験があります。また、フィリピンの孤児院でボランティア活動をしたこともあり、人の役に立てる国際協力には興味を持ってきました。今回、実際に身を置くことで、途上国の医療の現状を少しでも知ることができ、日本の医療と共通する問題点にも気付かされました。将来は、まず国内で小児科医として経験を積み、その後は国際協力に携わってみたいと考えています。

常をご紹介 pus スチエック! eck



カウンターでインターンシップや個別相談の予約ができる。



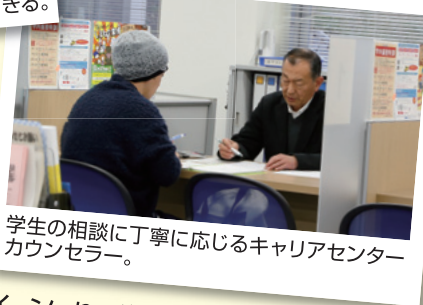
キャリアセンターでは学生たちが企業ファイルやパソコンで情報をチェック。

春の就職活動スタート! 篇

企業の情報解禁とエントリー開始が従来の12月から3月へ変更となった2016年度卒業学生の就職活動。島根大学では学生にどのようなサポートを行っているのでしょうか。島大生の就職活動についてレポートします!

01 学生を応援! キャリアセンター

入学した学生が最初に就職について考える機会となっているのは、キャリアセンターが実施している「就業力育成特別教育プログラム」。プログラムは「キャリアデザイン力育成コース」と「グローバル人材育成コース」の3つのコースに分かれており、インターンシップやガイダンスなど



学生の相談に丁寧に応じるキャリアセンターカウンセラー。

の様々な内容で構成されています。授業科目では学生の主体性を重視しており、講義形式よりもグループディスカッションなどを多く実施。学外でもフィールド演習や企業インタビューなどを行い、学生のコミュニケーション力やプレゼンテーション力を養います。また、キャリアセンターではカウンセラーによるきめ細やかな

サポートも充実。個別相談やインターンシップの手配、エントリーシートの書き方指導や模擬面接の練習など、学生の要望に応じて様々な支援を行っています。さらに今年は、2月26、27日に1泊2日の就活直前合宿を初めて決行しました。学生にとって就職や自身のキャリアについて深く考える2日間になったようです。

このほかに学生から高い支持を集めているのが、「無料就活バス」。東京・広島・岡山・大阪など、県外で開催される合同説明会へ大学から無料で往復バスを運行しており、他県での就職を目指している学生の経済的な援助となっています。

このようなサポートは、学生のアンケートを基に毎年検討・改善がされています。キャリアセンターの本田講師は、「学生の意見を反映することで、よりニーズに沿うことができるので進んで参加してほしい」と、学生たちの積極的な利用を望んでいます。

学生の心強いサポーター!!



本田 周二さん (キャリアセンター 講師)

就職活動では何より積極的に動くことが大切。キャリアセンターには用事がないと入りづらいかも知れませんが、いつでも職員が温かく迎えるので心配ありません。1、2年生でもインターンシップに参加する学生も増えていきますし、どんな些細な相談でも大歓迎。私の研究室にも気軽に来てください。学外のイベントも紹介しており、何が自身のキャリアアップにつながるかは分からないので、フットワークを軽快にどんどん参加してください。学生の皆さんは普段の講義でも進んで先生や職員に要望を伝えて、自分のいる場所をより良いものに変えてほしい。大学の主役は学生です。学生生活も就職活動も本気で取り組む方が楽しいですよ。

02 シュウカツに役立つ 「就活サプリ」を制作!

1年生の時に参加した「就業力育成特別教育プログラム」がきっかけでキャリアを意識し始めたという小谷さん。初めは具体的なイメージがわからなかった就職ですが、様々な環境に飛び込んで挑戦をし、そこで得られた経験や沢山の出会いを通して、働く上で何を大切にしたいのかを考えることができました。

大学生協が主催する「就活サプリ塾」というイベントでは塾長を務め、全国の大学生が持ち回りで企画・編集を行う就活情報誌「就活サプリ冊子」の制作も担当。小谷さんは、就職活動には自分の基準を明確にすることが大切と考え、自己分析を図って整理をするツール、「就活ロジックツリー」を後輩に紹介しました。

自己分析をして
自分の武器を
見つけよう!



作った人
小谷 哲也さん
(総合理工学部 4年生 ※取材時)



ボランティアやイベントの司会などをこなし、社交的な印象の小谷さんですが、最初は人前で話す際にはとても緊張していたとのこと。しかし、1年生の時に参加したアメリカ力研修により、勇敢に挑戦することの大切さに気がされました。「就職活動でも自分の足を使って行動を起こして、直接見て、話を聞くことにより物事を理解するということが大切。経験することが次につながります」(小谷)。

03 ガイダンスや インターンシップに参加!

これからが本番!
頑張ります!

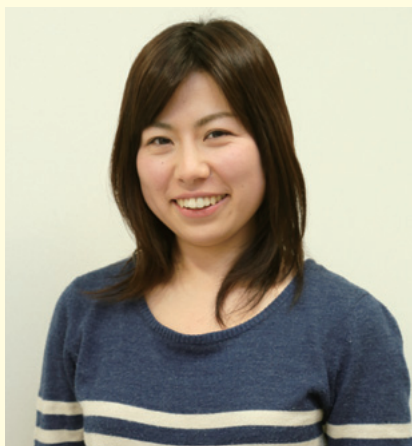


頑張る人
上山 温さん
(生物資源科学部 3年生 ※取材時)

この春から就活の上山さんは、学内・外の様々なガイダンスに出席し、自身の方向性を模索している途中です。大学からの「無料就活バス」を利用して参加した岡山のガイダンスでは、各企業が出した課題について他大学の学生とグループディスカッションしました。お菓子メーカーの新しい商品を考えてPRをするという課題に挑戦することで、今まで考えていなかった、「人と協力して新しい物を作る」という仕事

にも興味がわいてきました。

また、もともと動物に関わる仕事かしたいと考えていた上山さんは、キャリアセンターで紹介された牧場のインターンシップに参加。動物の世話をする仕事は想像していたよりもハードで、仕事の厳しさを改めて感じました。春から心を新たに本格的な就職活動に挑んでいます。「やるかやらないかで迷ったら、やるようになります。そうすることで新しい発見に出会えると思います」(上山)。



教えて!先輩! 動画公開中

高校生の皆さんの疑問に、先輩が動画でお答えします。スマホをお持ちの方は、ぜひご覧ください!

ご利用方法
Androidの場合→Google Play
iPhoneの場合→App Storeで
「Junaioジュナイオ」を検索してダウンロード

↓

「Junaio」を起動後、画面右上の
ボタンをタップ。
「チャンネル用QR」をスキャン

↓

QRをスキャンすると、
チャンネルのダウンロード
が開始されます

↓

上山さんの写真に
カメラをかざすと動画が再生



部活・サークルが初の合同演奏会 島根大学8団体が音楽で交流の輪

音楽系の部活とサークルが交流し、共に楽しもう。島根大学の部活やサークルの部室がある課外活動共用施設（通称BOX棟）4階で12月5日、6つ

のグループが演奏し、美術部がチラシを制作、広報した合同音楽会「しまふえす」が開かれました。

ギター部、美術部、吹奏楽部の8団体です。

中心に昨年7月頃から構想を練り、開催にこぎつけました。

音楽系の部活・サークルが同じ棟で活動しているにも関わらず、普段全く交流がなかったことから企画されました。ただ交流するだけでなく、みんなで音楽を楽しむことができ、という狙いもあります。吹奏楽部の平田

複数の部活・サークルが合同で音楽会を開くのは、これが初の試み。異なる団体の部員同士が共に演奏するだけでなく、普段はバンドを組んで演奏するサークルの部員が弾き語り演奏するなど、演奏スタイルもコラボして

優紀さん（法文学部3年生）を（学生プレス研究会・石原遥菜）

楽しみました。集まった50人ほどの学生たちはリズムに合わせて手をたたき、体を揺らすなど、様々な曲調の音楽を楽しんでいました。

共催の部活・サークルは、Pop'n Light Party、CROSS ROAD、スナフキン、軽音楽部、混声合唱団、

雲南市の三刀屋交流センターで12月14日、就業力育成特別教育プログラムの地域人材育成コー

地域の課題にアプローチする 「中山間地域フィールド演習」 成果報告会

ス必修科目である「中山間地域

フィールド演習」の最終成果報告

会が行われ、半年間にわたって雲



※学年表記はすべて取材時のものです。

南市の各地域で活動してきた学生たちが、その内容と成果を発表しました。報告会には雲南市の藤井勤副市長や本学の松崎貴キャリアセンター長も出席し、学生の発表に耳を傾けていました。

島根県は中山間地域の割合が8割を超えており、近い将来、日本全体が直面する少子高齢化や限界集落といった問題の「最先端」を走っています。その環境を生かして、地域の課題に積極的にアプローチし、リーダーシップを発揮できる学生を育成することが本演習の目的です。学生は地域住民と連携して活動する中で、地域の特徴や現状の課題を知り、その解決策を模索し、提案します。

青木大輝さん(生物資源科学部2年生)のグループは、雲南市木次町三新塔地区をフィールドに活動。少子高齢化が進み、地区の歴史や町並みが失われつつある同地区で、地区の名所や伝承な



どを文献調査やお年寄りへのインタビューにより調査しました。

三新塔地区の自治組織「三新

塔あきば協議会」と連携しながら、若者の力を必要とする草刈りや清掃などにも精を出し、地域との一体感を深めました。同グループの水島舞美さん(法文学部2年生)は「実際に地域に入っ

て活動することで大きな影響を受け、専門分野で地域づくりについて学ぶゼミを選んだ。将来的に自分の地元に対してどのような貢献ができるかを考える良いきっかけになった」と話していました。

授業担当の本田周二キャリアセンター講師は「学生たちは限られた時間の中で、よく最終報告にこぎつけてくれた。30時間という枠組みの中では、できないことも多い。地域の人と大学側に意識の差が多少あるので、今後は調整を重ね授業の改善に努めた」と話していました。

(学生プレス研究会・平等正裕)

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなを
守ろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240
http://omise.seikyoku.jp/shimane

印刷テクノロジーで、
世界を変える。

TOPPAN

凸版印刷株式会社 www.toppan.co.jp
松江営業所 〒690-0887 島根県松江市殿町383 山陰中央ビル7F

松江キャンパス

〔書道部〕



精確込めて挑んだ書道パフォーマンスの作品を囲んで

静けさと躍動感!
併せ持つ両面の顔で
字を書く楽しさを内外に発信

稽古日を決めていないことから、都合の良い時に稽古ができる同部。一心不乱に筆を進める時もあれば、和気あいあいと作品を批評し合ったり、仲間に影響を受けて新たな文字に挑戦したりと部員間で程長く刺激し合う時も。「字を書けば書くほど楽しさが増し、上達していきますから、我が部では楽しむことを大切にしています」と部長の藤原健祥さん(生物資源科学部2年生 ※取材時)。



「しまねの一字」の発表式にて書道パフォーマンスを披露した部員たち

音楽にあわせて巨大な紙に字を書く「書道パフォーマンス」にも取り組んでいて、大学祭や地域の祭りでは会場を沸かせ、2013年には参議院議員選挙の啓発ポスターやCMのモデルとなりました。「書道パフォーマンスは連

帯感が楽しめる絶好の機会。お披露目の場を増やしていきたい」と意欲満々。今後とも「静と動」両方の顔を見せながら、楽しませてくれることでしょう。

出雲キャンパス

〔サッカー部〕



サッカーにかける熱い想いでつながる部員たち

時間を有効に使いながら
大好きなサッカーを
とことん楽しむ

先輩から後輩へと「サッカーに向き合う真剣な姿勢」がしっかりと受け継がれている同部は、プレイヤー17名、マネージャー8名が所属し、そのほとんどが経験者という無類のサッカー好き揃い。



練習時からボールに食らいつくような気迫がみなぎる

練習は週4日と本学の体育系サークルの中では多めですが、練習場となる陸上競技場にナイター設備が未整備なため、練習は日没までの2、3時間。限られた時間を有効に使おうと練習中は持ち前の集中力を発揮。時間の節約のために用具の出し入れを学年に関係なく全員で行うなど

チーム丸となる場面も見られます。こうしたまとまりの良さは練習や試合後の過ごし方にも秘訣があるようです。チームメイトやOBと囲む食事のひとときやコンパ、バーベキュー、スキーなどのイベント企画を楽しみながら親睦や団結力を深めています。

今年度の目標は「西日本医科学生総合体育大会へスト8突破」。サッカーを楽しむ気持ちと勝ちへの執念を携えて日々の練習を積み重ねています。



鳥根大学は、鳥根スサノオマジックを応援しています！

神話第伍章後半戦 3選手の活躍に注目！

2014年10月より始まった、鳥根スサノオマジックの神話第伍章。9月のプレシーズンゲームからの悪い流れを断ち切れず、開幕から11連敗を喫し、11月終了時点では2勝16敗、泥沼の西地区最下位に沈んでいましたが、ハンソンHCから森山HC代行に指揮官を変え、新たな戦術、モチベーションがチームに生まれたのか、年末の5連勝によって、2014年12月終了時点では8勝18敗の西地区8位まで順位を上げてきた。

また前半戦は対戦カードも開幕から、滋賀(※西地区4位)、浜松(※同1位)、沖縄(同2位)、大阪(同5位)、京都(同3位)、岩手(東地区2位)、富山(同3位)、新潟(同5位)と常に上位チームとの対戦が重なったことも下位に沈んだ要因と推測できるが、後半戦からは比較的順位的にも下位にいるチームとの戦いが続き、5連勝の勢いを持って浮上のキッカケをつくれる流れにはなっている。

W・ウィザーズ選手が1月より加わり、勝負の2月、3月の戦いを白星量産体制に突入したい我が鳥根スサノオマジック。後半戦の戦いでは、右記の3選手の活躍に注目し、さらに会場で熱い声援を選手に送ってください。

※2015年1月15日現在

■4月からのホームゲーム

試合日	開始時間	対戦チーム	会場	試合日	開始時間	対戦チーム	会場
4/18(土)	13:00	ライジング福岡	益田市民体育館(益田市)	4/25(土)	19:00	バンビシャス奈良	松江市総合体育館(松江市)
4/19(日)	13:00		鳥根県立体育館(浜田市)	4/26(日)	13:00		松江市総合体育館(松江市)



#1 山本エドワード

スサノオマジック生え抜きのポイントガード。12月にはリーグ全体の週間MVPを獲得。2月1日のオールスターゲームにも鳥根代表として出場する。チームの顔。彼のゲームメイクがスサノオマジックの勝敗を左右する。

#11 W・ウィザーズ

1月より鳥根スサノオマジックに加入したニューフェイス。名門・メンフィス大学バスケットボール部出身。フィリピンリーグの得点王は、鳥根でもその得点能力をみせつけるか!!



#41 高田秀一

今シーズンよりスサノオマジックに加入した攻撃型フォワード。スサノオマジック所属の日本人最長の191cmの身長は、相手チームにも脅威の存在。その身長差を活かした相手チームとのミスマッチで有利に攻守を支配する。

鳥根スサノオマジックの最新情報・試合・チケットなど

鳥根スサノオマジック

検索

お問い合わせ先

鳥根スサノオマジック事務局 0852-60-1866 (平日10時~18時)

鳥根大学支援基金寄附者一覧 ご協力ありがとうございました。

(平成26年11月16日~平成27年1月31日にご寄附いただいた皆さま)
(五十音順・敬称略)

- 冠寄附/篠崎 學 海外派遣学生支援基金・留学支援
- 団体からのご寄附/鳥根大学教育学部同窓会
- 個人からのご寄附

荒瀬 榮	小川 巖	野中 資博
有馬 毅一郎	駒井 健一	波多野 一徳
井川 幹夫	竹永 三男	元上 竹松
大谷 浩	田中 俊幸	和田 亮介

鳥根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「鳥根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。TEL:0852-32-6603(総務課) ホームページ http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/

※ご寄附いただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

投稿の
お願い

『広報しまだい』は、鳥根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。鳥根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの鳥根大学に関する話題、鳥根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060 鳥根大学 広報室
TEL: 0852-32-6603 FAX: 0852-32-6019
E-mail: gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、鳥大農場で収穫・加工された「柚子ジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/平成27年6月12日必着



編集後記

平成27年4月、鳥根大学は服部泰直新学長のもと、新体制がスタートしました。今号の特集では、服部新学長からこれからの鳥根大学についてお話を伺い、小林前学長にはこれまでの3年間の歩みを振り返っていただきました。鳥根大学の更なる飛躍に向けて、熱い想いを感じていただけたのではないのでしょうか。

さて、春といえば桜。毎年4月に本庄総合農場で開催している「春の農場一日開放日」のお知らせを昨年の様子と共に紹介しています。約150品種の桜を一度に楽しむことができる機会ですので、ぜひ足を運んでいただき、鳥根大学での春をお楽しみください。

知的好奇心の旺盛なあなたへ



市民パスポート会員とは、
年会費5,000円で
どなたでも入会でき、
様々なサービスを1年間
(4月1日~翌年3月31日)
ご利用いただけます。

島根大学 市民パスポート会員募集中



詳細は島根大学ホームページのバナーからご覧ください。 <http://www.shimane-u.ac.jp/>

島大

検索

島根大学 春の風景「本庄総合農場」



本庄総合農場では約150種類もの桜を植栽しています。ぜひ足を運んでください。(本誌P19も合わせてご覧ください)